

教育研究等活動業績

山梨英和大学

フリガナ 氏名	性別	生年(西暦)	職名	所属
コスケ ケンイチ 小菅 健一	男	1959年	教授	人間文化学部人間文化学科
取得学位称号	文学修士	専門分野	日本近現代文学・表現論・表象文化	
学 歴	1984年	3月	早稲田大学第一文学部 日本文学専攻 卒業	
	1987年	3月	早稲田大学大学院文学研究科(博士前期課程) 日本文学専攻 修了	
	1991年	3月	早稲田大学大学院文学研究科(博士後期課程) 日本文学専攻 単位取得満期退学	
	年	月		
実務 経 験	年	月		
	年	月	特になし	
	年	月		
受 賞 歴	年	月		
	年	月	特になし	
	年	月		
所 属 学 会	1981年4月～現在 早稲田大学国文学会			
	1988年4月～現在 日本近代文学会			
	1989年4月～現在 早稲田大学国語教育学会			
	1991年4月～現在 昭和文学会			
特 免 資 格 等 ． ． ．	1984年	3月	中学校教諭一級普通免許状(国語)	
	1984年	3月	高等学校教諭二級普通免許状(国語)	
	1987年	3月	高等学校教諭一級普通免許状(国語)	
	1993年	5月	普通自動車運転免許	
e-mail	非公表			

## 目 次

### ○教育業績

教育理念、方針、方法

教育能力

教育方法実践例

作成した教科書、教材等

教育方法や実践に関する発表、講演等

担当授業科目

代表的なシラバス

教育改善活動

教育能力に対する評価

### ○研究業績

研究の特徴

研究経歴

研究実績

著書

学術論文

その他の研究活動

競争的資金採択課題

学会等発表、役員参加

共同研究・受託研究の実績

大学院生指導

研究能力に対する評価

### ○サービス活動業績

学内委員会・作業部会等活動実績

アドバイザー活動実績

後進育成活動実績

社会貢献活動

### ○専門的活動(教育業績、研究業績、サービス活動業績)の統合による成果と目標

専門的成果

専門的目標

### ○添付資料

略

## 教育業績

教育理念、方針、方法	<p>担当する学生の問題意識とニーズの多様性に対して、十分に伝えられるように、内容やレベルの幅が広く、情報量が多い講義を行い、一人一人が自分に合った成果や満足が得られる教育を目指している。学生には参加意識を持って、自発的・積極的に臨めるようなインタラクティブな講義になるように授業を進めている。そのために、学生が興味・関心の持てるものをとということで、様々な表現ジャンルから教材化出来るものを探し、授業で取り上げるので、受講生の学習意欲が喚起されるので、良い評価をしてもらっています。</p>
教育能力	<p>(1)教育方法実践例 安定教材や定番教材よりも、現代文化(サブカルチャー)の様々なジャンルのものを教材化して、学生が驚くようなものから授業が展開していくような方法を実践している。視聴覚教材として使うDVDやビデオ、CDの内容選択に工夫を凝らしている。そして、授業によっては、様々なタイプのワークショップ的な実践作業を多く取り入れている。</p> <p>(2)作成した教科書、教材等 町田守弘 編「新しい表現指導のストラテジー」(東京法令出版 平成12年5月)に論文「切り結ぶ映像と〈ことば〉—イメージ喚起力活性化の試み」を寄稿。</p> <p>(3)教育方法や実践に関する発表、講演等 第38回中部地区私学教育研修会(2000年10月)において、「〈ことば〉を生かす一國語教育の意義と可能性—」という基調講演と研究発表会のコメンテーターをする。</p> <p>2007年1月山梨県立甲府城西高校の教職員を対象に、「日本語表現力を向上させるための指導方法」というテーマで講演をする。</p> <p>2011年5月山梨県立富士北稜高校での県内の国語教員の研修会において、「言語活動の充実—ことば・表現・ものの見方や考え方」という講演をする。</p>
担当授業科目	まんが論、コミュニケーションスキル、卒業研究、基礎ゼミ、専門ゼミ、展開ゼミ、日本文学史、日本語スキル、現代文化論、現代芸術論、近現代文学論
代表的シラバス	<p>まんが論</p> <p>現代文化を代表しているサブ・カルチャー(ポップカルチャー)の絶対的な中心の場所に位置しているものが“まんが”文化であることは、誰もが認める普遍的なことである。この事実に関しては、自分たちの日常生活における、様々な局面での圧倒的な“まんが”の作品やキャラクターの氾濫ぶりを見てみれば簡単に確認出来るはずだ。ただし、現在の“まんが”をめぐる実態と、その影響や存在意義といったことを精緻に観察して、詳細な読解や分析を加えていったならば、作品やキャラクターが玉石混交の力オス状態であることに対して、異議を唱える者は一人もいないと思う。そこで、“まんが”作品に対するきちんとした評価基準・価値尺度を、この授業の受講者一人一人が自分なりに確立して、一つ一つの“まんが”作品に対して、良いものは良い悪いものは悪いと是々非々できちんと向き合っていくことが出来るようになるために、現代“まんが”の開祖であり、神様でもある手塚治虫から現在までの、問題意識の高い代表的な作家(表現者)たちの作品、さらには、社会的な問題作やインパクトのあった雑誌などを考察していくことで、現代の“まんが”文化の実態と本質に迫っていく講義になる。</p>
教育活動改善	<p>FD研究会には時間が許す限り参加して、自分の講義や演習に生かせるものは取り入れています。「授業改善のためのアンケート」の改善して欲しい点に挙げられたことに関しては、自分で注意するとともに、そういった傾向(話すスピードが早くなる)が出た時には、指摘するように授業の初回において必ず話しています。</p>
教育能力に対する評価	<p>(1)学生による授業評価 「授業改善のためのアンケート」によれば、講義において使用する視聴覚教材、プリント、テキストが授業の内容理解に非常に役立つとともに、興味・関心を引き、面白くて勉強になったという好意的評価を多く頂いています。ただし、盛り沢山の内容をこなしていく時に、時々、早口になってしまうので、もう少しゆっくり話して下さいという要望をもらうことがあります。</p> <p>(2)同僚教員等による授業評価 本学においては、教員が他の教員の授業に参加して、相互に評価するという制度はまだ取り入れていないので、ありません。</p>

## 研究業績

研究の特徴	<p>〈ことば〉の持っている映像(イメージ)喚起力を言語映像論と措定して、その対義概念である映像言語論と合わせて、表現論ということで学部時代から一貫して研究している。</p> <p>作品論や読者論的なアプローチも組み込みながら、文学研究の狭い枠組みに留まらないで、影響関係にある映画やアニメ、演劇、マンガ、音楽といった文化事家にも範囲を広げながら、作品創作や表現活動としての国語教育にまで手を伸ばして、表現論を駆使した総合的な文化論の研究を幅広く繰り広げていくことを考えている。</p>
研究経歴	<p>1987年～1994年 立正大学教養学部 非常勤講師</p> <p>1994年 山梨英和短期大学国文学科 専任講師</p> <p>1998年 山梨英和短期大学国文学科 助教授</p> <p>2002年 山梨英和大学人間文化学部人間文化学科へ改組</p> <p>2002年～2013年 愛知淑徳大学文化創造学部 非常勤講師</p> <p>2004年～現在 山梨英和大学人間文化学部人間文化学科 教授</p> <p>2006年～2008年 和洋女子大学</p>
	<p>(1)著書</p> <p>『時は過ぎゆく』論—時間論再考の視点から—(共著)(『論考 田山花袋』桜楓社 1985年2月)</p> <p>『父母への手紙』論—〈私〉という表現装置(共著)(『日本文芸の系譜』笠間書院 1996年10月)</p> <p>『古賀春江の表現原理—同心円としての絵画と詩—(共著)(『日本文芸の表現史』おうふう 2001年10月)</p> <p>専攻としている川端康成と表現論をめぐって書いた、それぞれの時点の代表的な論文。</p> <p>『新たな自分と出会う——〈もの〉の見方』のワーク(共著)(『未来の学び 小学生のための生涯学習講座』学術研究出版 2022年3月)</p> <p>(2)学術論文</p> <p>『浅草紅団』論—空像としての都市〈浅草〉—(『国文学研究』第96集 1988年10月)</p> <p>『川端康成における大正十二年の意義—“作家”以前の問題をめぐって—(『日本文藝論集』第27号 1994年9月)</p> <p>『美しい日本の私—その序説』論—小説論としての読みをめぐって—(『山梨英和短期大学紀要』第28号 1995年12月)</p> <p>『美の存在と発見』論—小説論としての可能性と限界—(『山梨英和短期大学』第29号 1996年12月9日)</p> <p>『川端康成の表現意識の確立—文学と美術の結節点から—(『国文学』 2001年4月)</p> <p>川端康成をめぐる研究論文の主要なもの。『当選の日—生活者と作家の相克—(『太宰治研究 第十九輯 2011年6月)</p> <p>『〈考現学〉の方法—“事実”の“再現”としての修辞学—(『国文学 解釈と鑑賞』1991年1月)</p> <p>『コミックメディア論試稿—“言語芸術”と“映像芸術”の融合—(『山梨英和短期大学紀要』第32号 1998年12月)</p> <p>『広告表現における音・映像・〈ことば〉—佐藤雅彦の“ルール”の教材化をめぐって—(『月刊 国語教育研究』No.332 1999年2月)</p> <p>『ロバート・メイプルソープ』の写真行為論序説—〈見えている〉ものを〈見る〉ことをめぐって—(『国文学』1999年8月)</p>

研究実績	<p>「《言語映像》と《映像言語》による表現論の結節点—押井守論の前提として—」(「山梨英和大学紀要」第5号 2006年12月)</p> <p>「押井守論(1)—表現原理の基底にあるもの」(「山梨英和大学紀要」第11号 2013年2月)</p> <p>表現論によって展開した代表的な文化論</p> <p>「キリスト教と人間文化学 「沈黙」と「深い河」をめぐる遠藤周作のキリスト教観—日本人にとって神とは—」(「山梨英和大学紀要」第17号 2019年3月)</p> <p>2014年3月5日 『『梶井基次郎』の流儀—〈美〉をめぐる意識と表現』(『梶井基次郎全集(上) 檸檬』 大韓民国 ドンチョン社)</p> <p>(3)その他の研究活動(国際会議発表、学術誌編集、学術論文査読等)</p> <p>(事典項目執筆)</p> <p>遠藤周作学会[編]『遠藤周作事典』(2021年4月15日 鼎書房)</p>
競争的資金採択課題	特になし
学会等発表・役員参加	<p>1982年 10月 「『眠れる美女』論」(第49回 川端文学研究会)</p> <p>1983年 8月 「『東京の人』論」(第52回 川端文学研究会)</p> <p>1984年 8月 「川端康成における言語映像試論」(第56回 川端文学研究会) 川端文学専門家の前で卒業論文の成果を発表したもの。</p> <p>1988年 11月 「習作期における川端康成の〈表現〉意識」(昭和63年度 早稲田大学国文学会 大会) 修士論文に取りあげた問題との関連性から、新たな課題として取り組んだテーマだった。</p> <p>1995年 12月 「表現装置としての〈私〉—「父母への手紙」論—」(第101回 川端文学研究会)</p> <p>2011年 現在 早稲田大学国語教育学会 委員</p> <p>2021年 11月 「知の“葉っぱ”としての図書館—未完のアミューズメントパーク—」(第107回全国図書館大会山梨大会 第2分科会大学図書館)</p>
受託研究の実績	特になし
大学院生指導	特になし
研究に対する評価力	自己の研究能力に対して、同じ学問領域の学内外の専門家から、評価に関するヒアリングなどを本学はまだ行っていません。

## サービス活動業績

学 内 委 員 会 ・ 作 業 部 会 ・ 等 活 動 実 績	2009年4月～2012年3月 エクステンション委員会 委員長 2010年4月～2012年3月 学生部委員会委員 2011年4月～2012年3月 国際交流委員会 委員 2012年4月～ 日本語・日本文化コース コースコーディネーター 2008年 新カリキュラム検討作業部会
アドバイザー活動実績	担当している基礎ゼミナール(1, 2年生)、専門ゼミナール(3年生)、卒業研究(4年生)を受講する学生たちの、履修・生活・部活・進路などの相談をうけて、アドバイスを行っていくという一般的な活動を、オフィスアワーに限らず昼休みや空き時間に行っている。
後進育成活動実績	大学院での講義や演習を担当したことがないため、具体的な形での後進育成活動の実績はありません。
社 会 貢 献 活 動	(1)講演会 1995年 6月 山梨県立文学館で行われた井伏鱒二展の関連講演として、「井伏鱒二の戦後作品を読むー『遥拝隊長』論ー」を行う。 (2)出前講座 2004年 3月 山梨県韮崎市市民教養講座「日本語の豊かさ・おもしろさ・むずかしさー丸い卵も切りよで四角ー」を、中央公民館の市民教養講座の講義として行う。 2012年 6月 山梨県立甲府城西高校・山梨英和大学連携授業 小論文演習授業 講師 2013年 6月、10月、12月 山梨県立甲府城西高校・山梨英和大学連携授業 小論文演習授業 講師 2013年 3月 平成24年度大学ガイダンスセミナー inやまなし 模擬授業 2015年 高大連携講座 山梨県立甲府城西高等学校 2017年 1月 山梨県立甲府城西高校・山梨英和大学連携フォーラム「思考と表現のデザイン」教育 企画・主催・報告 2017年 5月、10月、12月 山梨県立甲府城西高校・山梨英和大学 高大連携小論文講座「思考と表現」講師 高校1年生「産業社会と人間」講演会講師 2017年 10月 文部科学省指定SPH(スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール) 2018年 1月 山梨県立甲府工業高校(国語科)「新しいものの見方と考え方」講演会講師・アドバイザー 2018年 11月 山梨県立甲府城西高校 1年次生全体授業「産業社会と人間」講演会講師 2019年 12月 山梨県立甲府城西高校・山梨英和大学高大連携小論文講座「思考と表現」講師 2019年 10月 山梨県立甲府県立甲府東高校 ミニ大学 講師 11月 甲府星槎高校 出張講義講師 12月 山梨県立甲府城西高校・山梨英和大学 高大連携小論文講座「思考と表現」講師 2021年 12月 山梨県立甲府城西高校・山梨英和大学 高大連携講座「小論文の発展的課題」講師 2022年 9月 山梨県立富士河口湖高校「面接試験に臨む姿勢の理論と実践」講師 12月 甲府星槎高校 出張講義講師 12月 山梨県立甲府城西高校・山梨英和大学高大連携講座「小論文の発展的課題」講師 2023年 3月 山梨県立山梨高校「思考と面接のスキル」講師 (3)公開講座 2009年5月～現在 山梨県立文学館 年間文学講座 講師 (2009年度川端康成、2010年度芥川龍之介、2011年度太宰治、2012年度夏目漱石、2013年度村上春樹) 2014年 10月 「生命を巡る(ことば)と“物語”に触れる——手塚治虫の『火の鳥』論——」(平成25年度コミュニティーカレッジ講座 大学コンソーシアムやまなし)

社会 貢 献 活 動	2018年	5～6月	「日本近代文学作品の心像風景を読む」(メイプルカレッジ講座)
	2018年	10月	「キリスト教と人間文化学 「沈黙」と「深い河」をめぐる遠藤周作のキリスト教観—日本人にとって神とは—」(メイプルカレッジ公開連続講座)
	2019年	5～6月	「梶井基次郎の世界 —詩的精神に彩られた文学の四季—」 (メイプルカレッジ講座)
	2019年	10月	「キリスト教と人間文化学 遠藤周作『死海のほとり』試論 —イエス像とキリスト教信仰をめぐって」(メイプルカレッジ公開連続講座)
	2020年	10月	「キリスト教と人間文化学 遠藤周作のイエス像—日本人のキリスト教観—」(メイプルカレッジ公開連続講座)
	2021年	5月	「太宰治の中期作品を読む」(メイプルカレッジ講座)
	2021年	9月	「キリスト教と人間文化学 日本人にとっての(キリスト教):遠藤周作『キリストの誕生』論」(メイプルカレッジ公開連続講座)
	2021年	10月	「新たな自分と出会う—くもの見方>のワーク」 (大学コンソーシアムやまなし 未来の学び 小学生のための生涯学習講座)
	2022年	5～7月	「夏目漱石の思想—随筆や講演からの考察—」(メイプルカレッジ講座)
	2023年		「紡ぎ出される(ことば)の背後にあるもの—関東大震災以前・以後の川端康成の表現原理—」(早稲田大学エクステンションセンター 近代文藝の百年 関東大震災直後の文学)
			(4)学外審議会・委員会等
	2008年	4月	大学コンソーシアムやまなし 委員
	2013年	9月	山梨県文学館 協議会委員
	2014年	2月	平成25年度第2回山梨県文学館協議会 出席
	2015年	9月	山梨県文学館協議会委員 甲府市地域創生戦略会議委員  平成28年度「幼児教育テレビ番組放送事業」 企画提案審査会委員(山梨県教育庁社会教育課)
	2016年	9月	山梨県立図書館協議会委員(現在に至る)
	2017年	4月	こうふ開府500年記念事業実行委員会主催事業専門部会委員
	2020年	4月	令和2年度「幼児教育テレビ番組放送事業」規格提案審査会委員(山梨県教育庁社会教育課)
			(5)その他
		2010年4月～2012年3月	キャンパスネットやまなし企画運営委員会 委員
	2011年	12月	「おもてなし条例」制定に伴う県民向け啓発のための山梨県制作のCMの審査
	2012年	6月	富士山の世界文化遺産登録実現に向けての山梨県制作のCMの審査
	2012年	10月	第28回国民文化祭・やまなし2013PRのための山梨県制作のCMの審査
	2013年	5月	第28回国民文化祭・やまなし2013夏のステージCMコンペ審査委員
	2013年	8月	第28回国民文化祭・やまなし2013秋のステージCMコンペ審査委員
	2013年	8月	第9回放送文化大賞 関東・甲信越・静岡地区審査会審査委員

## 成果と目標

専門的成果	① 文学作品や文化事象の読解・分析の作業に生かしていた表現論の様々な技法を、作品の創作や制作の理論に応用することによって、自己表現に興味や関心のある多くの学生の指導に一定の成果を上げることが出来た。
	② 〈ことば〉や表現ということを目にした、文学作品はもちろんのこと、様々な文化事象の教材化の作業も一段落つき、個々の教材の吟味・内容精査によって、読む・聞く・考える・書く・話すという、人間の表現活動の流れに基づいた体系的な学習活動の枠組みが出来上がった。
	③ 本来、専門にしている文学における作家や作品の研究と、サブカルチャーと呼ばれる様々な文化事象の研究が、表現論という視点と読者論(享受者論)という視座によって、二本立てで行ってきたことが相乗作用して、それぞれの研究活動を効果的に進めていくことが出来た。
専門的目標	① 文章表現や絵画表現、映像表現による創作や制作を希望する学生の能力の開花、開発、発展に寄与する指導を行うことで、より高い完成度を目指させて、表現欲求を持つ学生に対して、自己表現の奥深さに気付かせて、卒業後も表現活動を継続してもらう。
	② 人間文化の基本になっている〈ことば〉、そして、その〈ことば〉を駆使することによって成立する表現、さらに、自分たちを取り巻いている文化事象を意識させて、自覚的なコミュニケーション活動の実践によって、日常生活をより豊かなものにしていく指針となるような授業展開を行う。
	③ 卒業論文のテーマとした、言語映像論と映像言語論の相関性と原理論を、文学作品や文化事象、マンガやアニメーション、日本語表現の問題の読解・分析、理論化・教材化の作業を通して、いっそう進化・深化させていく。

作成基準日	2023年3月31日
-------	------------